

《MONUMENT FOR NOTHING II》 制作体験ワークショップについて

鹿児島県霧島アートの森

7月18日より当館にて開催された特別企画展「会田誠展 世界遺産への道!! 会いにいけるアーティスト AMK48歳」(9月23日まで)での作品《MONUMENT FOR NOTHING II》制作体験ワークショップについてご紹介させていただきます。

同作品は2008年から会田氏自身が全国各地でワークショップを開催し、不特定多数の参加者とともに制作したダンボール彫刻

を中世のゴシック教会にある巨大なレリーフ、もしくは日光東照宮に見られるような視界を覆い尽くす息苦しいまでに圧倒的な荘厳美を作り出そうというプロジェクトです。そこには、遍在性の高いダンボールを素材として用いることや、

個人主義的な現代美術の風潮に逆行するといった会田氏自身の制作上の細かいコンセプトが存在しています。

初めて参加された方々は、ダンボールをほくしながら張り子状の立体物を作ることに奮闘しながらも、次第に会田氏と直接対話をしながら制作を進めて行く中で自身が作品の重要な一部分を担っているということを理解し、コンセプトを忠実に遵守する形で制作を進めることとなります。約6時間の制作時間で完成した作品の多くは、両手のひらサイズの大きさに満たないものばかりでしたが、参加者の多くは、会田氏と共有した制作時間の証が、数年後に完成を予定している作品の中に存在しているという喜びを感じており、今回のワークショップ参加に大変満足されているようでした。(上木原堅一)

*ワークショップは、会期中の週末に5回開催されました。



ラーニング・デザイン・プロジェクト 「Museum Start あいうえの」

東京都美術館

上野公園にある9つの美術館・博物館*では、子供たちのミュージアム・デビューを応援するラーニング・デザイン・プロジェクト「Museum Start あいうえの」

に取り組んでいます。東京都美術館と東京藝術大学が推進役を担い、プロジェクトが始まって1年余。9館連携もまだ緒に付いたばかりですが、この夏、小学生に比べて来館率が低い中高生を対象とした「ティーンズ学芸員」というプログラムが始まりました。「君の言葉で作品を語ろう」をキャッチフレーズに、約20名の中高生が東京国立博物館、国立西洋美術館、東京都美術館でじっくり展示を鑑賞し、最終的には自らの言葉で展示物を語りそれを録音した音声データを制作する、長期休みを利用した全10日間のプログラムです。

夏の5日間は毎日上野の各館で世界各国の文化財を見て歩く旅をしながら、自分が関心を持った数点を選び鑑賞し、さらに数名のメンバーで発見したことについて対話を重ねていくスタイル



のプログラム。多くの参加者が上野ならではの文化財との出会いの密度に驚き、また文化財を自分の眼で見て語ることの難しさと、それができたときの達成感に手応えを得て、回を重ねるうちに大いに盛り上がっていました。次の冬に再開する第6日目に向けてはウェブ上のFacebookのようなコメントシステムを利用して、お互いの原稿にコメントをつけながら推敲し、約1分の読み原稿を自分の声で録音をしていくことを課題としています。実はこのプログラムには中高生だけでなく、一般市民である「アート・コミュニケータ(愛称:とびラー)」と東京大学、東京藝術大学の大学生も各10名程参加し、約50名の参加者で対話を重ねました。この音声データは来年度にはウェブサイト等で公開予定です。こうした様々な世代の人々による多様な文化財との出会いを、生の声によって顕在化する活動を行う事で、公的な文化財への新しいアプローチが開かれていくことを願って、今後も活動を続けていきたいと考えています。(稲庭彩和子)

*上野の森美術館、恩賜上野動物園、国立科学博物館、国立国会図書館国際子ども図書館、国立西洋美術館、東京藝術大学、東京国立博物館、東京都美術館、東京文化会館

(五十音順)